

## 実践事例⑮ 武蔵村山市立第二中学校（村山学園）

### 1 取組・活動名

「小中一貫教育全国サミットに向けた『場に応じた礼儀作法とその実践』」

### 2 取組・活動のねらい

- 社会の一員として、相手に対する心づかいを適切な行動として表せるように、日常礼儀作法について学び、時と場に応じた適切な言動について理解し実践する態度を育てる。

### 3 教育課程上の位置付け

「総合的な学習の時間・6時間」

### 4 実施上の工夫

- ・ 「江戸しぐさは心のマナー」を読み、相手を思いやる言動について知り、「現代版江戸しぐさ」をグループで考える。
- ・ 「立ち方」「お辞儀」「敬語」についてクイズ形式で考え、礼儀作法の基本を知る。
- ・ 場に応じた言動をとることができるか、ロールプレイングを行い、グループの中で評価し合う。
- ・ 実践を振り返り、成果と課題について話し合い、どのように今後に生かしていくのか考える。

### 5 本取組・活動の内容



- ・ 生徒は傘傾げ、肩引きなどの江戸仕草について学んだ後、現代版の江戸仕草をグループで考えた。
- ・ 電車の混雑時にはリュックなどの持ち物を前にかける「カンガルー」や、何かあったら言い訳ではなく謝するという「まずあやまり」など様々な現代版江戸仕草を考え、実演した。



- ・ 「立ち方」「お辞儀」「敬語」についてクイズ形式で考え、場に応じた言動をとることができるか、ロールプレイを行い、生徒同士で評価した。
- ・ 当日の役割について担当を決めて、マニュアルを読み合わせ、場面を想定したロールプレイングを通して、明確な目標をグループごとに考え、実践した。



- ・ 小中一貫教育全国サミット当日は、来賓、会員、地域の方と細かく受付場所を分けて対応した。
- ・ 初めて来校された方が困らないようにラミネートした小さな会場図を渡し、校内外を案内した。
- ・ 大きな荷物のあるお客様から荷物を預かる場合は、番号札を渡しお帰りの際に荷物が混ざって混乱しないように実施した。

## 6 成果

- ・ 生徒は、TPOに応じた言葉遣いや「おもてなし」の心得を学ぶことができた。
- ・ 生徒は、貴重な体験を通して、敬語やしっかりとした服装で対応することの大切さを学ぶことができた。
- ・ 生徒は、当日に向けたあらゆる場面を想定したマニュアルを作成できた。マニュアルに表現できないこともあることから、ペアの生徒と協力し、自分たちで考え、工夫して対応することができた。
- ・ 礼儀作法は一朝一夕で身に付くものではなく、積み重ねがあってこそ、「おもてなし」の実践ができるようになることを学ぶことができた。